

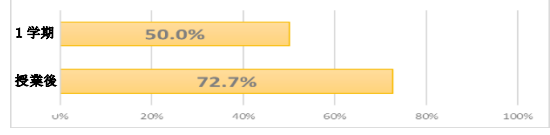
1 「本質的な問い」による単元構想について

- 和文化を効果的に伝える手立てを友達と協力して考えている児童の姿から、単元計画は、本質的な問いに迫る構成になっていたと言える。
- 伝えたいことに沿った効果的な資料を選び切れていない児童もいたため、教科の見方・考え方を活用できていない児童もいた。問いを工夫する必要があった。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

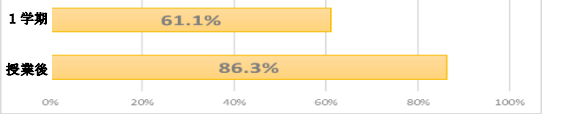
【論理的思考力・判断力・表現力】

授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している。



【知識・技能】

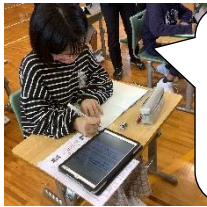
情報と情報の関係について理解し、使うことができる。



育成を目指す資質・能力に関する児童アンケートの結果（1学期と授業後の比較）

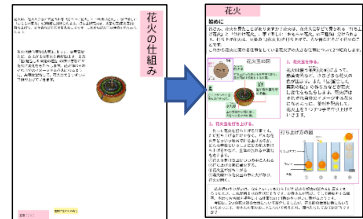
【資質・能力の育成を目指すため意図的に行った手立て】

- ①児童の話し合いにおける適切な視点の設定【（調べる項目：歴史、支える人々など）に合わせた資料や文末表現など】
- ②多様な情報交換を可能とする活動方法【タブレット、班活動】



- ・ 和服の歴史を伝えるなら、イラストもあった方が読んでいる人がイメージしやすいと思う。
- ・ 花火の仕組みを載せるなら、写真やイラストは絶対にある。
- ・ イラストだけでなく、詳しい説明も必要だ。
- ・ 和服の他の文化との関わりを伝えるために、和服の写真と、関わっている文化の写真も一緒に載せるとよく伝わると思う。

意見交流後の児童の記述や発言



話し合い前後の成果物の変化



児童の成果物

- 児童アンケートの結果、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力」の資質・能力の高まりを自覚する児童が増加したと考える。
- 児童は、筆者の資料を効果的に使う方法を学んだ後に、紹介したい和の文化の魅力を伝えるパンフレットの内容について班で話し合った。「写真だけでなく、詳しい説明を入れよう。」「関連する文化の写真も併せて載せるとよく伝わる。」などという意見から、詳しい説明を入れたり、写真を工夫したりする児童の姿が見られた。

【主体性・積極性】

第4時の振り返り

私は、資料を時代に分けたりイラストを載せたりして、和菓子がどのように発展していくかを使っていくと良いことが分かりました。歴史を伝えるときは年表を使いたいです。

第7時の振り返り

私は、日本の文化の一つである和菓子がなくなってしまうのはいけないと思います。和菓子には子供たちの成長や人々の願いが込められているからです。和の文化に携わっている人の気持ちも考えたいです。

単元後の振り返り

私は、和の文化には担っている人々の思いや願いが込められていることを知り、日本人をつなぐ大切な役割があるのだと思いました。和の文化の魅力を受けついでいく必要があると思いました。

児童の振り返りの変容

- 本質的な問いを基に単元構成したことで、児童の振り返りにおいて、和文化に対する気付きや、受け継ぐ思いを深める記述に変容した。
- パンフレットの作成は、班で行ったため、担当決めや調べ活動などスピードや内容に差ができた。

3 「デジタル機器」の活用

- ロイロノートを使って、児童の考えを送信し、学級で共有することができた。
- パンフレットのページを作成する際に、写真の取り込みやレイアウト決めなど、自由に操作することができるため、推敲の学習等で児童が深く学ぶことができた。
- 共有することで学習を深めることはできたが、出典の明記等、細部にわたる指導が抑え切れていなかった。